

ダイズ品種‘サチユタカA1号’の奨励品種採用

～水田を有効活用したダイズ生産の安定のために～

‘サチユタカA1号’は、成熟後に莢（さや）がはじけやすいという‘サチユタカ’の欠点を改善するために、農研機構 作物研究所（現 次世代作物開発研究センター）が、遺伝子マーカーと戻し交雑法を用いて、難裂莢性を付与した品種です。奨励品種決定調査において本県での適応性を調査した結果、生育、収量および品質は‘サチユタカ’と同等で、難裂莢性によって実質的な増収が期待できることが明らかとなり、主要農作物奨励品種審査会を経て、2019年3月に奨励品種に指定されました。

1. 背景と目的

‘サチユタカ’は、多収でタンパク質含有率が高く、豆腐加工適性にも優れており、集落営農や地域の担い手グループを中心に、大規模かつ効率的に栽培されてきました。

しかし、成熟後に莢がはじけやすく、作業や天候上の都合で適期に収穫できない場合、自然裂莢による減収が生じやすく、その改善が求められていました。そこで、難裂莢性品種‘サチユタカA1号’を奨励品種決定調査に供試して、本県での適応性を検討してきました。

2. 研究成果の概要

奨励品種決定調査（2013～2018年）によって、‘サチユタカA1号’（図1）は‘サチユタカ’と比較して、開花期や成熟期が1日遅く、主莖長、主莖節数、分枝数などの形態的特性、子実収量がほぼ同等であることがわかりました（表）。一方、百粒重はやや重く、子実の粗蛋白質含有率はやや低いものの、実需者による豆腐加工適性評価では‘サチユタカ’と同程度に高いことも明らかとなりました。

また、成熟後の日数の経過とともにどちらの品種も裂莢率は増加しますが、‘サチユタカA1

号’は‘サチユタカ’と比較して明らかに裂莢しにくく、収穫が遅れても減収しにくいことが確認されました（図2）。

3. 実用化に向けた対応

本年から種子生産を行いますので、一般の栽培は次年度以降となります。栽培上の注意点として、ウイルスによる褐斑粒の発生を防ぐため健全種子を使用しアブラムシ防除を徹底することと、品質低下を防ぐため極端に収穫が遅くならないように注意することがあげられます。



図1 収穫期の‘サチユタカA1号’（左）とその子実

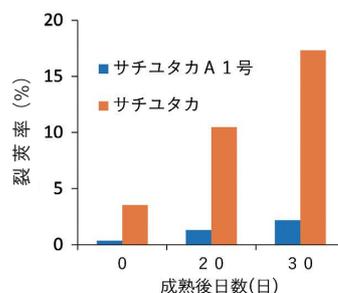


図2 成熟後日数の経過に伴う裂莢率の推移

注1) 調査は2016年に行った。

注2) 裂莢率は、各品種10個体を調査し、(裂莢数÷稔実莢数)×100で評価した。

表 生育、収量および子実成分

品種名	開	成	主	主	分	子	百	子
	花	熟	莖	莖	枝	実	粒	実蛋
	期	期	長	節	数	重	重	白
	(月.日)	(月.日)	(cm)	(本/株)	(kg/a)	(g)	(%)	
サチユタカA1号	8.6	11.3	48	12.8	4.1	44.3	40.0	45.9
サチユタカ	8.5	11.2	48	12.4	4.2	43.1	37.4	47.5

注) 数値は、当センターにおける2013～2018年の6カ年の平均値。子実重は坪刈り収量。

(育種科 杉山高世)